

来賓挨拶

高知女子大学長 木 原 正 雄

木原でございます。今日は第12回高知女子大学看護学会が開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、非常に暑い時期に日頃の研究成果を発表され、議論されますことに対し、敬意を表するものでございます。今日、医療技術の発展はめざましいものでございます。さる7月10日、発表されました厚生省の60年簡易生命表によりますと、わが国では、女性の平均年齢は80.5才になり、80才の大台をこえることになりました。男性は74.8才となり、ともに世界一の長寿国になったわけでございます。男性が女性に比べ、約6才早く死ななければならぬということ、いったい何が原因でありましょうか。男性の方が社会的におそらく酷使されているということが早死の原因であるのか、みなさん方にお教えいただきたいと思っているわけでございます。敗戦直後、この日本人の平均寿命は、50才をこえまして、それ以後急速に長くなって、今日に至ったわけでございますけれども、このことは日本社会の高齢化をいっそう進めることになったことは、周知のところでございます。昭和45年に65才、高齢者といわれる65才以上の人口は全体の7%でございましたが、昨年の昭和60年には、全体の10.2%を占めるようになりました。ということは、15年間に高齢者の人口は7%から10.2%に増大したわけでございます。これだけ高齢者人口が増大するのに、フランスでは70年かかっておりますし、スウェーデンでも60年、アメリカでも30年かかったと言われておりますが、日本はアメリカやヨーロッパの国に比べますと、2倍から5倍のスピードで高齢化が進んでいるというわけでございます。15年ののち、昭和75年になりますと、すなわち、生歴2000年というところでございますが、生歴2000年には、15.6%になるといわれております。寿命が延びるということを含め、高齢化社会になるということは、はたして単純に喜んでいいのか私は常々疑問をもっているわけでございます。その理由の一つは、8年前、昭和53年のことでございますが、日本では寝たきり老人、つまり、6ヶ月以上床についております老人は29万9千人、約30万人でございましたが、昭和59年、一昨年になりますと36万6千人となっております。この寝たきり老人のうち6割は女性でございます。そしてこの寝たきり老人を介護する人の9割は女性でございます。老人社会というのは、この数字からみますと、まさに女性の社会となるわけでございます。また6月のはじめに厚生省から発表されました60年国民健康調査によりますと、国民8人に1人、正確には7.8人に1人ということでございますが、まあ8人弱に1人の国民が病気やけがをしているという統計数字が発表されました。昭和50年代の前半には、10人に1人の割合でございましたが、急速に病人が増えているということ、医療技術が進歩したといわれる半面、こういう風なことがおこってきております。しかも高齢化が進む中で、有

病率は至上最高になったというわけでございます。またそういう中で、新聞にも発表されておりますように、いわゆるぼっくり寺、ぼっくり死にたいということを祈願するお寺が大繁盛しておると言われているわけでございますけれども、医療の進歩する中でこういうことが起こるのは、いったいどうしてでありましょうか。まあ素人の私は、いつも疑問をもつわけでございます。また世界的に見ますと、発展途上国といわれる国々では、毎年子供の死亡数は500万人以上にも達すると言われております。そういう中で、日本だけが世界の寿命の長い国になったということを手ばなしで喜んでいいのか、ということもでございます。以上のような事態がおこってきているということは、単に医療だとか、医療技術だけで解決しえない問題を提起しておるのではないかと、つまり医療の面からだけではなくて、社会的な視点からだけではなくて、もっと広いマクロ的な見知から問題に接近することが必要ではないかと思っております。学問研究の領域が非常に専門化され、細分化が進む中で、学際的という風にいきますか、グローバルな見知からこういう問題を私は考えてみる必要があるのではなからうかと思っております。みなさん方の研究につきましても、全く、門外観の私が勝手なことをいうことになるかもわかりませんが、特に最近、新聞誌上を騒がせておりますように産み分け技術が発達し、それが実際に行われているそうでございますけれども、私はこの記事を見ましたときに、人間までが牛や豚のようになりはしないか、という心配を抱いたわけでございます。かつ、医療技術のあり方についてこれでよいのかといろいろ疑問をもっております。そういったことがございますが、看護学の発展、看護婦の養成ということが、ますます必要になってきております今日、本日の学会が日本の看護学のため大きな成果をおさめられることを、祈念いたしますとともに、高知女子大学の発展のために特に看護学科のよりいっそうの充実と、今後の看護科の発展のためにはどうあるべきかということにつきましてもお考えいただければ幸いかと存じます。素人がつまらぬことを申しあげましたが、以上をもちまして私のあいさつにかえさせていただきます。ありがとうございました。